

平成27年第2回総合教育会議議事録

平成27年第2回総合教育会議が、平成27年10月22日、午後0時30分、塩尻総合文化センター302多目的室に招集された。

会 議 日 程

1 開 会

2 市長挨拶

3 教育委員会委員長挨拶

4 議 事

議事第1号 教育の条件整備について

5 その他

6 閉 会

○ 出席者

市長	小 口 利 幸		
教育委員長	小 澤 嘉 和	教育委員長職務代理者	林 貞 子
教育委員	石 井 實	教育委員	小 島 佳 子
教育長	山 田 富 康		

○ 欠席者

なし

○ 説明のため出席した者

こども教育部長	岩 垂 俊 彦	こども教育部次長 (教育総務課長)	青 木 実
こども課長	青 木 正 典	家庭支援課長	百 瀬 公 章
		平出博物館長	中 島 伸 一 樹
子育て支援センター 所長	掛 川 佳 子	市民交流センター次長 (交流支援課長)	小 松 秀 樹

○ 事務局出席者

教育総務課課長補佐 (学校支援係長)	太 田 文 和	生涯スポーツ課課長補佐 (社会教育係長)	荻 村 宰
スポーツ推進係長	田 下 高 秋	教育企画係長	米 窪 昌 紀
教育施設係長	清 水 博 幸		

1 開会

岩垂子ども教育部長 御苦勞さまでございます。定刻となりましたので、ただいまから平成27年第2回総合教育会議を開会いたします。なお、日程の都合上、終わりの時間を1時20分までということでもよろしく願いいたします。

2 市長挨拶

岩垂子ども教育部長 それでは、初めに小口市長から挨拶をお願いいたします。

小口市長 こんにちは。第2回総合教育会議ということですが、私の都合でこんな昼休みからの招集になったこと、おわび申し上げます。子どもの教育ほどではないのですが、若手職員の教育も大切なことでもございまして、この1時半から職員教育の講座に私もということで、こんな時間にさせていただいた次第でございます。

早速でございますけど、昨日、市長会の総務文教部会の部会長という役目があるものですから、毎年二、三回、県との協議の場において、総合教育会議については、77の自治体のうち66が設置済みだという教育次長からの報告でございました。うち、まだ1市は設置したのに実施していないとのこと。実施したのは65自治体ということで、大分新たな制度への、形だけかもしれませんが、移行が始まっているのかなという報告がされた次第でございます。私どもその中の1つでございまして、今日はその第2回目ということで、既に行政、教育委員会一体として地域の人材育成には取り組んできたという自負がございますので、その辺の意思疎通等については、自信を持っておりますが、今後に向けてさらなる、よりプラットフォームを同じにした形での教育についての議論が深まれば、この新制度の趣旨に合うのかなという気がしておりますので、そんな面からもまた、本日は短時間ではありますがよろしく願いいたします。御苦勞さまです。

岩垂子ども教育部長 ありがとうございます。

3 教育委員会委員長挨拶

岩垂子ども教育部長 続きまして、教育委員長から挨拶をお願いいたします。

小澤教育委員長 お願いします。市長さんの今日一日のスケジュール表を見させてもらいますと、非常にハードスケジュールであります。そんな忙しい中、時間を差し繰っていただいて、こうやって開催して下さったことにまず感謝を申し上げます。

我が市では、4月に総合教育会議を開催し、早速その場で大綱を決めました。スピードのある動きでありました。事務局ではその大綱に沿って今、自信を持って任務を進めている、そんな姿を日々拝見しておるわけであります。私は、とにかく事務局が元気を持ってやっていることが何よりも大事なことと、そんなことを思います。

一昨日、埼玉県の大宮で関東ブロックの我々の研修会がありました。私の出た分科会は教育委員会制度についてでありました。その中では、今、市長さんからは、長野県の場合にはもう八、九割方できたとお話がありました。しかし、この分科会では関東ブロックは広いのでたくさんある関係かどうかわかりませんが、総合会議を持って大綱を決めたところは半分強ぐらいの感触でありました。塩尻市の場合には教育大綱をつくるのみならず、先日には、外部評価の制度までに至っているという状況であります。私たちから見ても事務局はフットワークがいいというか、ワンストップの姿勢というか、大変スピーディーに物事を進めていってくださいます。頼もしい限りだと、そんなことを思っております。今日もそんな感謝の気持ちを持ちながら総合会議に臨んでいきたいと思っております。今日はよろしく願いいたします。

岩垂こども教育部長 ありがとうございます。

4 議 事

○議事第1号 教育の条件整備等について

岩垂こども教育部長 それでは、お手元の次第に従いまして議事に入ります。議事第1号、教育の条件整備等についてを議題といたします。資料No. 1でございます。事務局に説明を求めます。

青木こども教育部次長（教育総務課長） それでは、議事第1号をお願いいたします。教育の条件整備等についてということですが、趣旨にありますとおり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4に本総合教育会議の協議事項が記載されております。4月の第1回のときには、大きな協議事項として教育大綱の策定、それから児童生徒の安全確保について御協議をいただいております。今日は、第1項第1号にありますように、教育を行うための諸条件の整備その他市の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策、これが協議題とされておりますので、これについて御協議をいただくものであります。

ただし、内容的に広範囲にわたりますので、2のところ、本市の現状ですとか課題等を踏まえて、事務局で一定のものをまとめさせていただいております。(1)の学校教育について、からはじまり、子育て支援について、生涯学習について、市民交流センターについてというところであり、この全てについて御協議いただく必要はございませんけれども、皆様方の中で気になる点、それから協議をしておきたい点等ございましたら、順次お話しいただければと思います。議事の説明については以上でございます。

岩垂こども教育部長 ありがとうございます。一応、議事の趣旨ということで説明させていただきまして、具体的には、この(1)から(5)まででございますけれども、まず初めに御質問等ございましたらお伺いしたいと思います。

そうしましたら、話の持っていくかたということで、今、資料で「生きる力を育む」交付金（仮称）という形で資料を出させていただいておりますので、この説明をしていきたいと思っておりますのでお願いいたします。

青木こども教育部次長（教育総務課長） それでは、別紙の資料ですけれども、「生きる力を育む交付金（仮称）」をお願いしたいと思います。学校教育の中で、本市の教育委員会が2カ年で取り組んでまいりました特色ある教育活動交付金、1校200万円というものがございまして、これについて新年度以降どうしていくかということについて、案として事務局のほうで作成させていただいたものでございます。既に教育委員会の協議会の中では、教育委員の皆様にご説明をさせていただいております。それから、校長会のほうにも提案をさせていただいている現状がございまして。

内容について簡単に説明させていただきますけれども、まず1ページです。2つ目のところに「生きる力を育む」交付金（仮称）ということで、28年度以降の計画になります。特色ある教育活動事業交付金の検証結果等を踏まえて、成果を活かすべく考えたものでございます。(1)の対象経費は、こちらに記載がありますとおり基本的にはソフト事業を主体といたしまして、200万円のときに実施しておりました備品ですとか工事関係は対象外としたいものでございます。(2)の金額の部分でございまして、2つありますけれども、まずアのほうですけれども、基礎配分として1校当たりの定額として60万円。それからアに戻りまして、各学校の児童生徒数割で、小学校で1人当たり1,000円、中学校が2,000円というような形で考えております。主な内容につきましてはソフト事業で、アからコまでに記載してあるとおり、特色ある教育活動等が考えられるという状

況でございます。学校においては、これまでと同様に事業計画を策定いただきながら、教育委員会と協議をして使っていただくという内容でございます。

2ページ目につきましては、過去2カ年の検証ということで、(1)として成果、(2)として課題等、それから、その成果と課題を踏まえて(3)でただいまお話した内容を、構築に向けて考えたものということになります。特に、成果の中では、学校の伝統や地域の歴史文化に対する児童生徒の意識の向上が図られた、学習意欲の向上、学力向上が図られた、心身の健全な育成につながったというような項目が学校のほうから報告されております。それに対しまして課題の中では、教職員の思い、考え方に温度差が感じられるというようなこと。継続して事業展開していく必要があるということ。それから、中ほどにありますけれども、備品等につきましては通常の予算対応として入札等も必要になるので、本来の教育委員会、教育総務課で取り扱うことが望ましいというようなこと。それから、学校の規模に大小がありますので、その規模に合わせた交付金の配分が必要だというような点が挙げられておりました。ということで、これらを踏まえて、基礎配分と児童生徒数割方式にしたというものでございます。

3ページ目は、新しい交付金の概要をイメージとしてまとめさせていただいた内容でございます。金額的には、現在1校200万円ですが、それぞれ学校ごとにこの金額が変わってまいりまして、トータルでは、現在の試算では、一般会計で1,500万円余という状況でございます。細かな内訳ですが、また試算の段階ですが、4ページ目にありますとおり学校ごとに金額に相違が出てきている状況でございます。表の下にありますとおり、小学校では1校平均で99万3,000円ということで約100万円。中学校については学力向上等にウエイトを置く必要があるということで、平均で130万円余ということになっております。あとは、その下に参考として19市の状況がありますが、塩尻市の交付金については現在非常に手厚い状況であるという内容でございます。

5ページは、全国学力・学習状況調査の結果をお伝えさせていただいております。特に、小中学校のそれぞれ27番に地域行事への参加の関係がございます。塩尻市の状況が、長野県もそうですが、全国と比べて非常に高い状況にあります。それから、36番に総合学習の効果がありまして、これも平均を上回っているというようなことで、この事業の効果もあらわれてきていることがうかがわれます。簡単ですが、現在事務局で考えている交付金の制度の中身、試算等を御説明させていただきました。以上です。

岩垂子ども教育部長 昨年度から始まりました特色ある教育活動事業で、今年度もあったわけですが、その成果、あと課題を含めまして、新年度、来年度につきましては「生きる力を育む」交付金という構築を目指していくという説明でございました。今の内容につきまして御質問等ございましたら、お伺いしてまいります。

石井委員 済みません、質問ではありませんけれども、要望ですが、私ども学校訪問に行きましても、先生方も非常にこの交付金についてはありがたいということで、いろいろとその学校その学校で目的をつくってやっていることは事実ですし、それからまた、ぜひ市長さんにはこれをずっと続けていただくというような具合に働きをかけていただきたいというようなことの要望が多いものですから、ひとつ市長さん、よろしく願いを申し上げたいと思います。

岩垂子ども教育部長 ありがとうございます。

小口市長 成果を検証していただきながら、今言った荷重配分も手法としては正しいでしょうし、また小島教育委員は、私のところが少なくなってしまうとお怒りになるのかもしれませんが、一律でも私は全く構わないと思います。ただ、大したことじゃないけど、この間、6校給食を食べさせていただいた中で、何か備品を買ったとかハードに使ってしまった学校がありましたので、趣旨が理

解されていないのか、市でその費用を負担できないため、しょうがない使ったのかというところがありましたのでね、その辺は、生きる力を育む交付金にするのであれば、もうちょっと、もっともっと教育というところで、他のハードのところは、ぜひ手当てしてやってください。

岩垂こども教育部長 今の金額というのも若干、市長さんのほうからもありましたけれども、小島委員さん、コメントございますか。

小島委員 いえ、何もないです。

岩垂こども教育部長 校長会の中でも、やはりそういう意見は校長先生からもいただいておりますけれども、いろいろ予算の配分からいって、十分対応できない部分もあります。

小島委員 大きなところは、やっぱり子供の人数に応じてのほうが、私はいいいと思います。

山田教育長 今回の案は事務局でしっかり練ってもらったので、いいかなと思います。私が、市長さんにぜひお願いしたいのは、やはりこれは、教育の成果は長い目で見ないとなかなか出てこないということがあるので、しばらくぜひ第五次総合計画の間は続けてほしいなと思うことです。それと、これからまたコミュニティ・スクール化が進んでくことによって、地域の子供たちを地域でどのように育てるかということの中で、学校運営協議会の熟議を通してこういうことをしてほしいとか、こういう活動をさせたいとか、こういう取り組みをぜひ進めたいというようなことで希望が上がってくるということが考えられると思います。そうしたものにも柔軟に応えながら、本当に地域の中で子供がしっかり育つような交付金にしていきたいなあとと思います。それから、これまで新聞にも出てきている土俵のこととか、クライミングウオールのこととか、せせらぎ広場のこととか、こういうものが、確かにこれまでそれに取り組むような予算が学校の中になかったということもあるので、そうした学校の希望というか、子供の希望というか、地域の希望、保護者の希望について、優先順位もあるだろうけれども、予算を確保していくことが必要だろうと思います。それはやっぱり図書費なんかも同じで、学校の図書費というのはかなり限られていて、保護者から少しずつお金をいただきながら図書を充実させているというような現状もあるので、学校で子供たちにこういうことを学ばせたいとか、そういったことについて、図書も含めて校長裁量で予算が使えるようなそんなシステムも将来的には検討できればありがたいなと思っています。多分、土俵とかクライミングウオールとかせせらぎ広場というようなものは、ボディブローのように少しずつ効いてきて、子供たちの総合的な生きる力につながってくるのではないかなと私は考えています。そんな点をよろしくをお願いします。

林職務代理者 私、吉田小学校の土俵の御披露目の会に出席させていただいたんですけども、ちょうどその前日が相撲のほうの松本巡業ということで、御嶽海さんが来てくれたってということで、子供たちはもう本当に目の輝きが違いましたね。土俵ができたということの喜びのプラスアルファ、本当の力士がそこに来てくれたということで、子供たちは本当に興奮して、模範演技をやってくださった方はアマチュアの方だったんですけども、つくっていただいたことをまた利用しながら、ソフト面でそのメンテナンスの維持っていうことも大切でしょうし、授業や、また地域の人たちもその相撲の土俵を使っているいろいろな子供たちとの交流ができれば、すごく大きな効果につながるっていうふうに感じました。

岩垂こども教育部長 ありがとうございます。小澤委員長、どうでしょうか。

小澤委員長 今、市長さんのお話の中、言葉のニュアンスの中から、この事業は続けていこうという姿勢を示されましたので、安堵しております。これから私が話したいのは、定例教育委員会でも議題に載っていますので、定例教育委員会とかぶっちゃう、意見がダブルわけですが、それでもよろしいでしょうか。

岩垂子ども教育部長 市長さんがいらっしゃるほうが。

小澤委員長 いいですか。

岩垂子ども教育部長 どうでしょう。

小澤委員長 少々長くなりますけども、済みません。一昨年、200万円ということで、学校現場は相当にセンセーショナルでありました。県の会議へ行っても、200万円も自由に使えるなんてすごいこと、塩尻市は太っ腹などの声が飛び交いました。振り返ったとき、一番心に残っているのは、各学校の今までの活動や姿勢がこの機に問われるということです。まさしくそこなんです。それで、当初、交付金の使途は学校でという、学校という単位で使うという意味合いが強く、学校の戸惑いを感じてきたわけでありました。だから、ハード物に使っていった。私は、本来は、特色ある活動だから、学校でというより、むしろ学級とか学年とかクラブだとか部活だとか、そういうミニマムの単位をもってやっていくことが特色ある活動を生むことだろうなということを思ってきたわけです。28年度では、それが改善され、規制が緩和されました。これからが特色ある交付金の事業の趣旨が生かされるとの思いです。これからだと思います。ぜひぜひ、続けていていただきたいと、そんなことを思うわけでありました。なお、市長さんは、学校のことに関心が高く、イベント等では、各学校が発表するものに最後まで子供たちの活動を見てくださっています。多分子どもたちのあの活動の中に、本当のおもしろさを見ていると思います。例えば、大人とともに地域を教材化したり、新たなものをクリエートしていこうというような姿勢があったりで、そこに引かれて最後までいてくださるのだらうと思います。言いたいことは、とにかく勝負はこれからだということでありました。よろしくお願いします。

小口市長 それなのに、なんか全校の交付金が減ってしまうのは、よろしくないですね。基礎の部分は60万じゃなくて100万にすれば。そうすると、丘中と広陵中は、少なくとも二百十何万になるんで、さらに力を入れているということになるんじゃないですか。1つの案です。使い切りじゃなくてね、さっき言ったように、従来の使い切り補助金、予算化された補助金はもう就任以来、最悪だと言ってきましたけれども、考えは全く変わっておりません。だから、200万もらったから使い切れる能力がなかったんで、何か物を買ってしまったっていうのは、ぜひ皆さんのお立場からチェックしていただきたいと思えますけども。そうでなくて、教育に明確に使っていただくのであれば、それは全然問題ないですし、正直、去年の黒字5億円はありますので、多少投資しても全然いい環境にあると思えます。また厳しくなれば、それはそれなりに今度お互いにまた理解しながら削減することもあると思えますけど。来年は、いくら総額で減っているのでしょうか。

岩垂子ども教育部長 一応200万から100万です。

小口市長 15校の総予算はどのくらいですか。

岩垂子ども教育部長 200万の15校です。

小口市長 そうか、3,000万か。それが1,634万になってしまうのですか。

岩垂子ども教育部長 はい、そうです。

小口市長 それなら半減で、それはまずいでしょう。

岩垂子ども教育部長 昨年度からの引き継ぎもございまして。

石井委員 ある学校では、3年間を目標としてやっている事業があつて、この金額を削られるとどうもというような懸念を持っている学校もあるんですけども。やっぱり平等性ということになると、やっぱりこういう表でもって、あと1人当たりっていうのが一番平等性かな、なんてふうに思って聞いてきたんですけどね。

岩垂子ども教育部長 一応、説明の中ではですね、26、27は説明したとおりということでお約束

させてもらったんですが、これ以降はちょっとということでは進んできたという前提はあるんですけども。これはまた予算等もありますので、その席でまた理事者含めてお願いしたいと思います。

小口市長 そうですね。

小澤委員長 去年までは学校ぐるみで、学校でという単位でありましたので、それが28年度からはクラスとか学級とか、そういう小さい単位でもっと使えるようになってくる。そうすると、学校ではどんなところに使うかっていうのを事務局では予想はつきません。だから、ドカーンと今までみたいに200万をくれるから、さあ使ってみろっていうではなくて、ちょっと少し金額は落としてでも、様子を見ながら、学校の育ちに応じながら、趣旨に叶う用途を認めながら徐々にというスタンス。それでよかったら、来年はもうちょっと上げてもらうとか、こういう上昇も含みながらの予算づくりをしていただければ、学校現場も安心して取り組めると思います。

岩垂こども教育部長 確かに検証した成果を見てですね、必要であればまたということになると思うんですが、とりあえずは、来年度のという予算要求になりますので、それをステップにしてまた、ぶれるかもしれないんですけども、また場合によってはそういうこともあるかもしれません。

小澤委員長 取り組み状況を見ながらの姿勢で臨んでもらえばと思います。

山田教育長 今回、一番変えたのは、前年度のうちに早い段階で予算に上げてかなくちゃいけないので、前年度の段階で、学校で来年度何をするかということで企画書を出して、それを教育委員会で見てOKですよというやり方です。このやり方では、新しい組織が出発したときに、それは先に決められても俺たちはこういうことをやりたいんだよという場合があるので、不整合が生じます。学校のグランドデザインは、みんなで考えて決めていきます。28年度はそのグランドデザインでスタートするので、本校ではこういう教育活動でこういう子供を育てますというのを明確にビジョンを描きます。それに対して先生たちは、じゃあうちの学年ではこういうことをやってみたい、うちの学級ではこれをやります、学力向上のためにこういう活動をしますということをきちんとグランドデザインに位置づけて、事業を組み立てて申請する形にしたいと考えています。それについて教育委員会では、校長裁量で立ててきたものをできるだけ尊重して認めて、それならぜひしっかり使って子供たちの生き抜く力をアップしてほしいというような形でやっていくということが、新しい方式になるので、そういう意味では、これまでの、じゃあこれだけのお金があるからこういう物をつくりましょうとか、地域との交流をするために楽器を買いましょうというのは少なくなってきた、学校の教育ビジョンに沿った使い方というのが明確に出てくることを期待しているわけです。

小口市長 その学年ごと、あるいは学級ごとなのですか。

小澤委員長 学級あるいは学年、あるいはクラブとかにも拡大する。

小口市長 先生の資質によって影響を受けますよね、子供はね。そのところだけどう担保をするか。しょうがないですね、やっぱり先生を見て育つので、ある程度しょうがないところがあるけど、それが加速されるという、行政のいいところであって悪いところである、いわゆる平均の担保の部分がちょっと崩れそうな気だけをするので。それは校長先生の組織の引き締めに関してですね。

小澤委員長 ある程度の刺激を受けながらです。それによってグレードアップしてくるわけです。

小口市長 中長期的にはそういうものだと思いますけどね。ただ、先生もたくさんいますのでね。また、3年かわる先生もいますし、10年の先生もいますのでね。それは永遠のテーマで、組織っていう、しょうがないと思いますけどね。

それとね、給食を食べにいったら、ある女の子が、市長さん、なんで網戸なんかつけたんですかって質問されたんですよ。いらないと。何がほしかったのかなと、それも聞かなきや。もっと詳し

く聞いておけばよかったと思いながら。PTAの懇談会で、お父さんたちからハチが刺しちゃうと勉強ができないんでというふうに言われたのでって言ったら、納得はしてくれていましたけどね。網戸は、もう全部ついたのですか。

岩垂こども教育部長 ほぼ、設置終了しています。

小口市長 入札差金はどのくらい出たのですか。

岩垂こども教育部長 差金まではわかりません。

小口市長 落札率でいいから。非常に高い見積もりだったのでは。

岩垂こども教育部長 今ですか。

小口市長 忘れないうちに。

小澤委員長 そういうものをつくったときに、学校が子供たちに話をしないことは反省です。

小口市長 ああ、全教室ついてきたときにね。

岩垂こども教育部長 風通しが悪くなったということ、先生が生徒に言ったらしいんです、前段で。

小口市長 ああ、そうか。

岩垂こども教育部長 網戸をつけることによって。

小口市長 そうか。網戸によって爽やかな風が来なくなったと、そういうふうに思ったということなのか。よく知ってるね。どこで聞きましたか。

岩垂こども教育部長 いませんでした、後日聞きました。

小口市長 そうか。確かに言われてみればそういうこともあるかもしれない。

小澤委員長 フランクに、気軽に言ってもらえる関係はうれしいです。

岩垂こども教育部長 「生きる力を育む」交付金の関係は、このくらいでよろしいでしょうか。

それでは、全部はできないんですけれども、コミュニティ・スクール、今かなり進んでますので、その状況について説明させていただきたいと思います。

青木こども教育部次長（教育総務課長） コミュニティ・スクールの関係は、ちょっと資料は用意してございますが、本年度、地域連携コーディネーターということで池上先生をお願いして各校を回っていただきながら、取り組んできていただいております。現在、全ての学校において組織が構築されてスタートしており、本市では信州型がほぼでき上がりつつある状況ですので、来年度には正式なコミュニティ・スクール、国の定める教育委員会が任命する形の学校運営協議会で取り組んでいけるような状況まで、予定よりも早く来ております。

小口市長 市内の全校が。

青木こども教育部次長（教育総務課長） はい。4月に一斉にスタートというわけには多分いかないと思いますが、ある程度組織もでき上がってきている状況でございますので、そんな形での取り組みを教育委員会としてもサポートしていくということになります。

岩垂こども教育部長 特にコミュニティ・スクールについて、何か御質問等、御意見ございましたらお伺いいたしますが。

小澤委員長 要望でいいですか。市長さんの目の前で予算のことについて、お願いっきりで恐縮であります。私たちは、コミュニティに関して学習を重ねる中、塩尻版のコミュニティの特色というもの、を浮き彫りにさせているわけでありまして。学校運営協議会のメンバーを市教委が任命する、もちろん、現場の校長さんたちの相談を受けながら任命するわけでありまして、その任命権があるということ。それから、支援別ボランティアをつくって地域教育協議会というものをつくること。あるいは、中学校区ごとにコーディネーターを配置して共同歩調をとるといふようなところが塩尻型のコミュニティ・スクールだと教育委員会では理解しております。それで、先ほどの説明のように

地域によって、また、学校のスピードに応じながら形をつくっていくというスタンスですが、そういうスタイルでいいと思います。そこで、やがては全部ができたときには、中学校区ごとにコーディネーターを配置することになるわけであります。その予算取りといいますか、予定といいますか、それをも頭に入れておいていただければと思います。

小口市長 実施計画のときには、例えば岩垂部長があと1年で定年ですよね。彼はその地域のコーディネーターになることが大体決まっていますので。今、神戸さんがやっていた北小野の例をもっと波及させていけば成功する。

小澤委員長 そういうふうにしてもらえば。

小口市長 今ちょっとプランとはいえ、もう一つ進まなきゃいけないのかもしれませんが、わかりやすく言えばそういうことだと思いますので。それと、さっき言った特色ある教育の予算の案分みたいな形で、総額が増えていけば、私は全く予算いらないと思いますね。1つの方法だけで、ある必然性は全くないはずで。というのは、やっぱり部長クラスまでになると、地域の顔を知っている、資産を知っているということですよ。当然、支所長等の経験もある人が多い。どっかその辺の課長に再任用でなってもらってなるより、よっぽど効果があると私は思っています。

小澤委員長 子育てしたくなる日本一を標榜したとき、放課後の子供たちを誰が、いつ、どこで、どのように、居場所づくりをつくるか、これは大きな目玉の1つになると思うんです。それから、もうちょっと欲をかけば、土曜日の授業、これを学校でやるのか、地域でやるのか、そこら辺のところも、うまく整理していく。その指南役っていうのはコーディネーターになると思うんです。

小口市長 そうですよ。今、中学校単位というお話があったので、一、二年のうちに必ずそういう形に教育委員会から提案してください。場所は使えるところはあると思いますので、私が再三お願いしている、いわゆる豊後高田市の形を、今言った部長退任者が5人いれば、今年できるわけですから、そんなに難しいことじゃないと思いますけど。そこでの中身をもっと工夫を凝らしていってもらえば。部長クラスの人が退任すれば、算数や勉強は見れますよ。本人に先生の資格なんかなくなっても、その場にいれば。そこにいわゆる再任用と同じぐらいの場所、同じ人件費をやるのが一番近道だと思っています、最近ね。

去年の実施計画の段階では笑い話が半分でしたけども、今、そういう御提案をいただければ、その7割にすればいいだけの話ですから、今年も私が独断でやるといろいろね。提案してください。

小澤委員長 わかりました。

岩垂こども教育部長 では、コミュニティ・スクールについては、そんなところでよろしいでしょうか。では、先ほどの網戸の入札率の関係の説明を。

小口市長 余分なことで時間使ってはいけないので、予算額の何割でできたかだけでいいよ。

清水教育施設係長 98%です。

小口市長 そうか、それじゃ、大して差金が出ていないですね。

岩垂こども教育部長 それでは、(2)番の子育て支援からですね、(4)番までございますけれども、この中で特に皆様のほうから御質問、御意見等がありましたらお伺いしたいと思いますけれども。

山田教育長 1つお願いします。塩尻市教育大綱の中で、ひとり一人の育ちにていねいに向き合う教育を進めるということを理念にして、この理念が大分学校現場に浸透してきているなあと思っています。それで、今、学校現場の1つの課題として、これは保育園、もっと先の生まれたところからの続きの話になりますけど、その中にどうしても元気っ子応援事業の中で応援をしていけなくちゃいけない子供たちとか、障がいを持った子供たちとか、家庭的になかなか厳しい状況にある子供たちでありますとか、配慮しなくてはいけない子供たちが年々ふえてきているという状況があります。

特に、発達障がいや様々な障がいを持った子供たちには、早期によりよい教育を進めることによってよりよく成長していきます。そのことは、その子にとっても、家族にとっても、また本市にとってもとても大事なことです。ただし、今、学校現場または元気っ子応援事業の現場の中では、特別支援の、専門的に各学校へ入り込んで状況を見てアセスメントをしたりとか、担当される先生方に指導をするとか、研修の場を常にとっていくというようなことは、なかなかできにくい状態にあります。そこで、ぜひ特別支援の主事を、これまでの生徒指導それからICTに加えて入れていただき、早いうちからの教育・療育を本市で進めていくという、そういうことにぜひ取り組んでいきたいと思っておりますので、御理解をいただいて進めさせていただければありがたいと、思います。

小口市長 昨日県の社文協の議題の中では、教育委員会関係はその1個だけだったですよ。加配の先生と今言った特別支援の先生。うちでいう介助員だよね、介助員のなり手がいないっていう千曲市の提案もありました。それは別に先生資格がなくてもいいですよ。介助員について、塩尻はどうですか。

岩垂こども教育部長 資格ですか。

小口市長 なり手がいないような状況はあるのですか。

百瀬家庭支援課長 今ですね、塩尻市では支援講師が15人、介助員が18人いますけども、毎年、年度末とかに募集すれば人員は確保できています。

小口市長 県に、介助員を県費で出してくれという提案だったんですね。どこが提案したかわからないが。その中で、鳥取県とか秋田県とか福井県とかね、いわゆる教育先進地と言われているところは、みんなそれをやっているという附帯説明がついた提案だったのです。県の言い分は、長野県はそういう形での介助員的なものには県費のものはないと。だけど、普通の先生の資格を持った人の加配を、他県に先駆けてたくさんやっているの、トータルで判断しなきゃいけないという。具体的な数字はなかったですけどね。その辺のところは、どっちが正しいのか、いまいわからないので、またその辺も研究してください。もちろん、市の加配先生とて教員資格はある人のほうがいいんでしょうが、なかなかそこだけで人材が足りないのであれば、介助員的な人も、必ずしも資格はないはずでしょうか。

山田教育長 今、介助員もほとんど教員免許を持っています。

百瀬家庭支援課長 そうですね、介助員につきましても、特に資格は求めていないのですが、教員の資格あるいは幼稚園教諭、保育士、介護の資格等を持っている方がほとんどです。

小口市長 長野県は一切そういう加配はしてないんですね。そもそも、そういう予算の枠がないだね。

山田教育長 そうですね。国から市町村に財政措置をしているのは、本市で言う支援介助員配置の事業です。これは、県の事業ではありません。県の事業としてやっているのは、35人規模と、少人数と、あとは低学年の学習習慣形成というところへの加配です。これらは、それぞれ加配されると、35人規模をやるために、または少人数をやるために、または低学年の学習習慣を形成するためにということで活用されるものです。しかし、低学年の学習習慣形成も少人数も、1クラスでは30人を超えなければ加配されません。小さな学校では、なかなかそれが厳しいところです。例えば檜川の学校や両小野では、全くもう1人も加配されないという、そういう状況にあるので、どうしても市の加配を頼みにしていかなきゃいけないという状況になっております。

石井委員 現場の意見ですけども、先生方に言わせると、もうちょっときめ細かにやるには、各学年に加配をもらえばいいかななんて、そんなことを言っていましたけれどもね。やっぱし、1年から3年生までを同じ部屋で見ていくのは、大変であるという、その指摘はありましたね、現場の先生からは。

山田教育長 それは特別支援クラスのですよね。

石井委員 はい。

山田教育長 1学級8人いて、特に自閉症、情緒障がい級の学級は、それぞれの子供が全く違う障がいを持っているので、個別の対応の仕方です。これだけの数の教育をするということはとても困難です。マンツーマンでやっていかざるを得ないことが多いので、人がほしいというのは確かに言えると思うんですけど。

石井委員 だけど、いろいろな学校を回っていくと、塩尻くらいいろいろとやってくれているところはないって言っているものね。

小口市長 これから、そういう子が増えていくことは、これは残念ながらしょうがないというのは、昨日、市長5人、部会員5人、それと県の教育関係者と共通認識だったんで、県がお金もつか市がもつかは別として、増えていくでしょうねと。人材も、ここも確保していくでしょうねということとで終わってしまいました。

小澤委員長 先ほど教育長から、もう1人の指導主事の確保っていう話がありました。先日、新聞を見ていたら、来年の4月に障害者差別解消法が実施されるから、各現場ではそれに向けた取り組みをというようなニュースが載っていたんです。それは、発達障がい、AD、あるいはアスペルガーとかLDとか、そういう子供たちが通常学級で心地よく生活できるように適切な手当をしないさい、不利益をこうむることがないようにしなさいとあります。こういう法律が4月から施行されます。よって、塩尻市では、それに向けて早めに手を打っていくという意味合いですね。

山田教育長 それも含めて。家庭支援課のほうもそのことについては十分理解して、検討を進めておりますので。

小澤委員長 よろしく御理解をお願いします。

5 その他

岩垂子ども教育部長 そのほか、ございますでしょうか。

石井委員 済みません。市長さんに確認をしていただきたいんですけど。その前に体育施設、体育館の建設に未来の子供たちの体育館というようなことでもってありがとうございました。厚くお礼申し上げます。それと、もう1点ですけれども、来年度は洗馬小学校の改築は、よろしいですね。

小口市長 あれはもう補正予算で出してなかったですかね。

岩垂子ども教育部長 来年の夏休みに実施します。

石井委員 ありがとうございます。

小口市長 済みません、遅れまして。その件うちのほうから提案しておきましたけれど、補正でつけてくれました。

岩垂子ども教育部長 よろしいですか。

石井委員 はい。

岩垂子ども教育部長 ほかになければ、本日予定しました議事は終了したいと思います。

6 閉会

岩垂子ども教育部長 それでは、本日の会議事項は全て終了いたしましたので、これにて閉会いたします。どうもありがとうございました。

○ 午後1時20分に閉会する。
以上